RESONAC

2025年 CSRレポート

E棟 エントランス

レゾナック 市原サイト

- ■株式会社レゾナック・ハードディスク
- ■株式会社レゾナック デバイスソリューション事業部
- ■株式会社レゾナック 先端融合研究所(千葉グループ)
- ■株式会社レゾナック 千葉事業所

※. 2025年1月現在の組織区分

目次

◆事業拠点 P1

◆市原サイトのレイアウト・主要製品 P2

◆株式会社レゾナック・ハードディスク 社長メッセージ P3~P4
◆株式会社レゾナック デバイスソリューション事業部 SiC統括部 部長メッセージ
◆株式会社レゾナック 千葉事業所 所長メッセージ

◆会社概要及び市原サイト概要・沿革 P5

◆労働安全衛生及び環境方針 P6
◆労働安全衛生・環境マネジメントシステム
◆品質マネジメントシステム

◆環境負荷の概要 P7~P10
- 地球温暖化対策
- 水質管理
- 大気(排ガス)管理
- 廃棄物削減活動
- 廃棄物のゼロエミッション
- 化学物質管理

◆労働安全衛生活動実績 P11~P13
- 労働安全成績
- 安全活動
- 避難訓練等の緊急事態対応訓練、教育
- KYT活動
- 通勤災害防止活動
- 健康支援

◆地域とのコミュニケーション (社会貢献活動) P13~P14
- 工場周辺の清掃活動
- 自転車マナー指導
- 八幡臨海まつり
- 事業所見学会

報告対象期間：2024年 1月~12月

◆事業拠点

・山形県東根市
(株)レゾナック・ハードディスク山形工場(HD基板)

・栃木県小山市
(株)レゾナック・ハードディスク小山工場(HD基板)

・千葉県市原市(市原サイト)
- (株)レゾナック・ハードディスク (HD)
- (株)レゾナック デバイスソリューション事業部
市原生産・技術センター (SiCウェハー)
- (株)レゾナック 先端融合研(千葉グループ)
- (株)レゾナック 千葉事業所

・シンガポール
(株)レゾナック・ハードディスク (HD)

・マレーシア
(株)レゾナック・ハードディスク (HD基板)

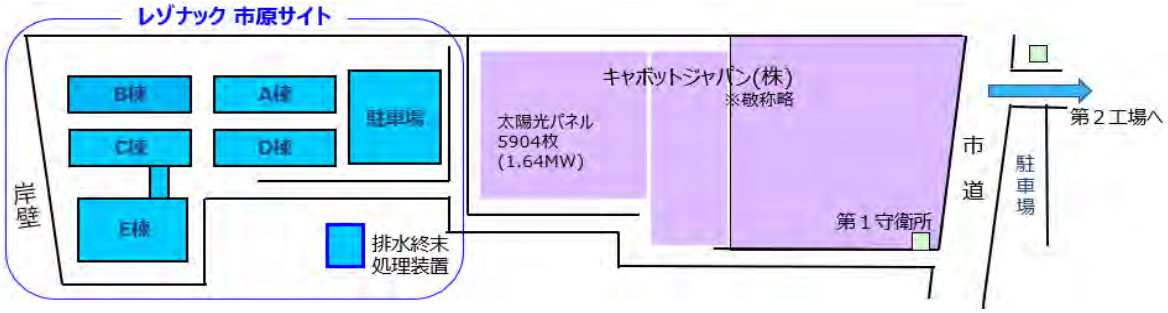
・埼玉県秩父市
- (株)レゾナック デバイスソリューション事業部
秩父生産・技術センター (SiCウェハー)
- (株)レゾナック・セミコンダクター (SiCウェハー/LED)
- (株)レゾナック光半導体
- (株)レゾナック 秩父事業所

・滋賀県彦根市
(株)レゾナック デバイスソリューション事業部
彦根生産・技術センター (SiCウェハー)

・鹿児島県日置市
(株)レゾナック・オプトエレクトロニクス (LED)

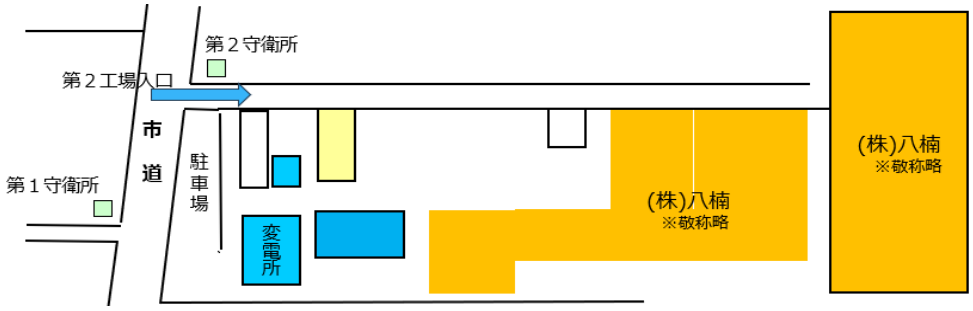
◆市原サイトのレイアウト

【 第1工場 】



■HD･･･ C棟、E棟
■SiC･･･ A棟、B棟、C棟、D棟

【 第2工場 】



◆主要製品

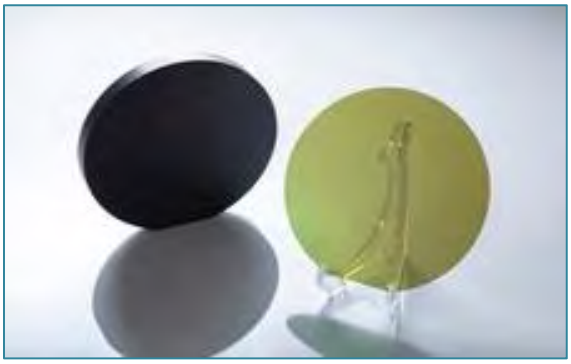
【ハードディスク】

■主な使用用途
・データセンター用
・PC用
・監視カメラ用　　etc･･･

製品スペック
■垂直磁気記録(PMR)メディア(現行量産品)
･･･HDD1台(アルミメディア10枚組)： **記録容量 28TB**

■熱アシスト磁気記録(HAMR)メディア(開発中)
･･･HDD1台(ガラスメディア10枚組)： **記録容量 40TB**

【SiCエピタキシャルウェハー】



■主な使用用途
・駆動システム(電気自動車、新幹線･･･)用
・電力変換装置(省エネ家電、鉄道車両･･･)用
etc･･･

製品の特長
■大電流、高電圧領域でのパワー半導体に適している

■変換効率が良くエネルギーロスが少ないため、省エネへ繋がる
(Siパワー半導体に比べて、電力損失70%低減！！)

◆株式会社レゾナック・ハードディスク　社長メッセージ

市原サイトCSRレポートを発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。
昨年7月1日に株式会社レゾナック・ハードディスクを発足、組織を一新新たな事業運営をスタートさせました。市原工場は中核工場として、構造改革を着実に実行し、見事V字回復を果たしました。従業員皆さまのご理解・ご協力に改めて感謝申し上げます。

ハードディスクメディアは近年主にデータセンター向けハードディスクドライブ（HDD）に採用され、低コストで環境にやさしい大容量記録媒体として発展著しいデジタル社会に大きく貢献しております。レゾナック製のハードディスクメディアは、世界の2割余りの市場シェアを占めております。
生成AIによるデジタル社会の発展は今後も大いに期待される一方で、巨額の投資が必要なこと、またGPUやHBM等大量の半導体を使用することで消費電力の急激な増大が懸念材料として挙げられております。そのためデータセンターは電力の自給や電力消費に伴い発生する熱の冷却についての検討を行っております。データセンターで使用される記録媒体は、HDD以外にNAND型フラッシュメモリーを適用するソリッド・ステート・ドライブ(SSD)や磁気テープがありますが、連続的なデータの読み書きとしてはHDDとSSDが主に利用されております。HDDとSSDを同一記録密度で比較した場合、HDDは圧倒的に消費電力や発熱量が少ないことが報告されており、これは地球温暖化ガスである二酸化炭素の排出量も少ないことを示しており、環境にやさしい記録媒体と言えるのです。

従って、当社が第一に目指している高記録密度化とそれを支える技術開発は、データセンターの投資削減と省電力化、脱炭素化に大きく貢献することができるのです。当社は、SMR(瓦磁気記録)に対応したハードディスクメディアとそのメディアに適したアルミ基板の開発と製造を通じて、世界最大容量のハードディスクメディアの供給を他社に先駆けて開始しております。また、更なる高記録密度化が期待できるHAMR(熱アシスト磁気記録)の開発を強化・加速しており、革新的、かつ環境負荷の低い高容量ハードディスクメディアを創出し続けることを、レゾナック・ハードディスクのビジョンとし活動してまいります。

事業活動を通じて環境にやさしい経営を実現すべく、2005年8月にISO14001の認証を取得し、全従業員が環境改善活動と環境負荷の低減に取り組み、成果を上げています。
労働安全衛生活動では、2009年3月に労働安全衛生マネジメントシステムの認証を取得し、マネジメントシステムの継続的な見直しと改善を通して、事業変化に適合した労働安全衛生活動を推進しております。

私たちはこれらの日常的な活動を通じて、社会の発展に貢献していくとともに、安全で快適な職場作りに努力を重ねてまいりました。今後は「健康経営」を新たに取り入れることで従業員の健康を向上させ、更なる職場環境の改善に努めてまいります。後も良き企業市民としてCSR活動を実践し、コンプライアンス遵守とともに安全で安心な持続可能社会の実現に取り組んでまいります。

株式会社レゾナック・ハードディスク
社長　真壁　保志

◆株式会社レゾナック・SiC統括部長メッセージ

市原サイトCSRレポートを発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。
2024年4月より、デバイスソリューション事業部はハードディスク事業を分割し、SiCエピウェハー事業及び光半導体事業を担う事になり、2025年4月で一周年を迎えることができました。デバイスソリューション事業部ではこの１年で更なる品質の向上と市原サイトにおける工程強化を進めております。この工程強化により、ご好評いただいている当社SiCエピウェハーの供給がより安定し、SiCエピウェハーを介した低炭素社会実現を一歩前進させていると確信しております。

SiCパワー半導体は、現在主流のシリコン半導体に比べ高電圧特性、大電流特性に優れ、電力損失も大幅に削減できることから、電力制御に用いるモジュールの高効率化、カーボンニュートラルを実現する製品として期待が拡がっています。電気自動車では充電器や高速充電スタンド、パワーコントロールユニット(PCU)への搭載が開始されました。また鉄道車両やデータセンターなどエネルギー効率が高く、二酸化炭素排出量を削減できる用途展開が始まっています。
一方、電気自動車市場は一時期の過度な成長予測から、現在は順当な成長度合いに見直されており、当事業部もこれに合わせたSiC基板及びエピウェハーの増強計画へと見直しを行っております。
特に今年～来年にかけては次の市場拡大タイミングに向けて力を蓄える時期となっており、この間にデバイスソリューション事業部の強みを磨き、かつ市原サイトではハードディスク事業とワンチームとなり、世界を勝ち抜いたハードディスクの経験や文化に学び、業界の三冠王と呼ばれるような世界一の安全性・技術力・組織力を実現し、市場からさらに求められるSiCエピウェハーを実現してまいります。
この様な活動を通して当社は、高性能、高品質のSiCエピウェハーの供給を拡大することにより、低炭素社会の実現を加速し温暖化緩和に貢献してまいります。

デバイスソリューション事業部
SiC統括部長　塩見　大介

◆株式会社 レゾナック 千葉事業所　所長メッセージ

株式会社レゾナック千葉事業所は、1961年にアルミ製錬工場として事業をスタートし、時代と共に生産品も変わり、現在、レゾナック・グループとして、ハードディスクメディアおよびSiCパワー半導体用ウェハーの開発・生産を市原サイトとして一体運営しております。

当事業所は、市原サイト内の株式会社レゾナック・ハードディスク及び関連企業への電力や工業用水など、ユーティリティ安定供給、土地・建物・緑地の管理、関連企業の排出水受入と排水処理設備管理等を担い、コンプライアンスの徹底をベースとして無事故・無災害と安定操業に努めております。
2005年8月に千葉事業所としてISO14001の認証を受け、労働安全衛生に関しても2009年３月にOHSAS18001、2020年7月にISO45001の認証を取得し、当サイトの環境保全及び安全衛生管理において継続的改善が図られるよう、マネジメントシステムの充実と各種施策のレベルアップの取り組みを進めております。
レゾナック・パーパス「化学の力で社会を変える」を体現するとともに、RBA行動規範に則り、弊社および各ステークホルダーの皆様と協力し合い、安全な労働環境の維持・向上に努め、労働災害・設備災害を防止するとともに、業務が環境責任と企業倫理に則って遂行されるよう、従業員への教育訓練、化学物質の適切な取り扱い、環境負荷の低減などの取り組みを進め、地域社会に貢献する事業所を目指してまいります。
今後とも私たちの取り組みに対して、忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

株式会社レゾナック千葉事業所
所長　黒川 弘章

◆会社概要

【株式会社 レゾナック・ホールディングス】

- 本社所在地　〒105-7325 東京都港区東新橋1-9-1 東京汐留ビルディング
- 設　立　1939年 6月
- 資本金　182,146百万円 (2024年12月31日現在)
- 連結売上収益　1,391,480百万円 (2024年12月期、IFRS適用)
- 連結従業員数　23,936人 (2024年12月31日現在)
- 事業内容　半導体前工程材料、半導体後工程材料、ハードディスク、SiC、自動車部品、アルミ機能部材、基礎化学品、黒鉛電極、リチウムイオン電池材料、機能性化学品、樹脂材料、コーティング材料、セラミックス

◆レゾナック 市原サイト概要・沿革

- 敷地面積　111,087m^2 (2024年11月25日現在)
- 従業員数　448名 (2025年3月31日現在)

«㈱レゾナック・エレクトロニクス»

1984年(昭和59年)	9月	昭和電工㈱にてHDの研究開発を開始
1989年(平成元年)	11月	昭和電工㈱千葉事業所内にてHDの生産活動を開始
1995年(平成7年)	2月	ISO9001認証取得
1999年(平成11年)	11月	昭和電工エイチディー㈱として独立
2005年(平成17年)	8月	ISO14001認証取得 (市原サイト)
2006年(平成18年)	9月	昭和電工エレクトロニクス㈱に改称
2009年(平成21年)	3月	OHSAS18001認証取得 (市原サイト)
2020年(令和２年)	7月	ISO45001認証取得 (市原サイト)　※OHSAS18001から移行
2022年(令和４年)	1月	SiCパワー半導体用ウェハの量産を開始
2023年(令和５年)	1月	㈱レゾナック・エレクトロニクスに改称
2024年(令和６年)	4月	HD事業とSiC事業を分割
2024年(令和６年)	7月	HD事業を分社化
2025年(令和7年)	1月	㈱レゾナック・エレクトロニクス解散 (㈱レゾナックへ吸収合併)

«㈱レゾナック デバイスソリューション事業部»

2025年(令和7年)	1月	㈱レゾナック デバイスソリューション事業部発足

«㈱レゾナック・ハードディスク»

2024年(令和６年)	7月	㈱レゾナック・ハードディスク設立

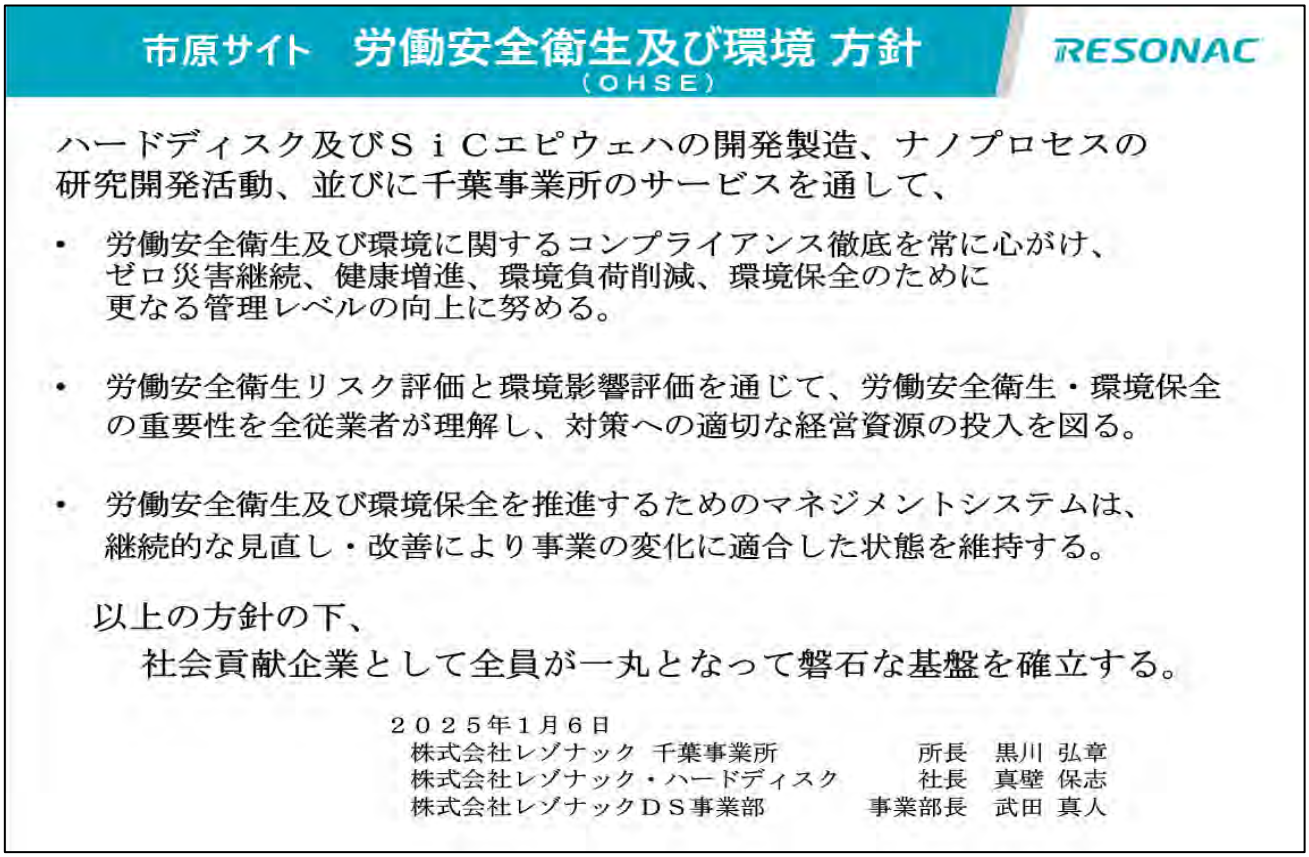
«千葉事業所»

1961年(昭和36年)	9月	昭和電工株式会社千葉工場着工
1962年(昭和37年)	6月	アルミニウム製錬開始
1973年(昭和48年)	10月	アルミニウム製錬能力(公称)　160,000 トン/年
1986年(昭和61年)	2月	アルミニウム製錬全面停止
1986年(昭和61年)	10月	昭和電工株式会社千葉事業所発足
2023年(令和５年)	1月	㈱レゾナック 千葉事業所に改称

«高分子研究所・先端融合研究所 (千葉)»

2010年(平成22年)	1月	研究開発センター(千葉)として、薄膜・ナノプロセスの開発を開始
2013年(平成25年)	1月	先端技術開発研究所(千葉)・応用化学品研究所(千葉)に改組
2016年(平成28年)	1月	融合製品開発研究所(千葉)に改組
2023年(令和5年)	1月	高分子研究所(千葉)・先端融合研究所(千葉)に改組
2025年(令和7年)	1月	先端融合研究所(千葉)に改組

◆市原サイト労働安全衛生及び環境方針



市原サイト　労働安全衛生及び環境 方針
（OHSE）

RESONAC

ハードディスク及びＳｉＣエピウェハの開発製造、ナノプロセスの
研究開発活動、並びに千葉事業所のサービスを通して、

- 労働安全衛生及び環境に関するコンプライアンス徹底を常に心がけ、
  ゼロ災害継続、健康増進、環境負荷削減、環境保全のために
  更なる管理レベルの向上に努める。
- 労働安全衛生リスク評価と環境影響評価を通じて、労働安全衛生・環境保全
  の重要性を全従業者が理解し、対策への適切な経営資源の投入を図る。
- 労働安全衛生及び環境保全を推進するためのマネジメントシステムは、
  継続的な見直し・改善により事業の変化に適合した状態を維持する。

以上の方針の下、
社会貢献企業として全員が一丸となって磐石な基盤を確立する。

２０２５年１月６日
株式会社レゾナック　千葉事業所　所長　黒川 弘章
株式会社レゾナック・ハードディスク　社長　真壁 保志
株式会社レゾナックＤＳ事業部　事業部長　武田 真人

◆労働安全衛生・環境マネジメントシステム

労働安全衛生及び環境方針に基づく各種活動の推進並びにマネジメントシステムの継続的な改善により、更なる管理レベルの向上に努めています。また、「社会貢献企業として全員が一丸となって盤石な基盤を確立する」をスローガンに掲げ、そのために、下記の項目を実践しています。

1. 安全、環境に関するコンプライアンスの徹底
2. 安全・化学物質リスクアセスメントによる危険源の特定及び対策の徹底
3. ヒヤリハットシステムの活用とKYT活動徹底による安全感度向上活動の推進
4. 他事業所や他拠点で発生した労働災害を基にした類似災害防止検討会実施による安全意識向上
5. レゾナック市原サイト及び近隣企業の排水処理並びに排水関連施設の運転管理
6. 省資源、省エネルギー、温室効果ガス低減、廃棄物の再資源化・減量に継続的に取り組む

◆品質マネジメントシステム

レゾナック 市原サイトは、1995年2月にISO9001の認証を受けました。
高性能・高品質な磁気媒体をお客様に提供するため、原材料受入から製品の出荷まで一貫して厳しい品質管理を徹底するとともに、その継続的な改善により顧客満足の更なる向上に努めております。

当社の品質方針として、「総合品質トップレベルの製品を全世界の客先に届けよう！」をスローガンに掲げ、下記の項目を実践しています。

1. 最高品質の製品を競争力のある価格で納入する
2. 顧客のニーズを先取りし、迅速な対応を行う
3. サプライヤーを含む全員参加により、品質管理を徹底する
4. 品質マネジメントシステムの継続的な維持・改善を行う

◆環境負荷の概要

当サイトでは、原料・資材・電気・ガス等のエネルギーを消費し、製品を製造しており、生産活動に伴う排気・排水・廃棄物が排出されますが、全体の環境負荷を明確にし、環境負荷低減活動を積極的に展開しています。

2024年
年間消費量

- 原料・資材
- 電気 **53.7M**Wh
- ガス（都市ｶﾞｽ） **12.7万**㎥
- 上水 **0.7万**㎥
  工業用水 **38万**㎥
- 敷地内関連企業工程排水 **36万**㎥

2024年
年間排出量

- ※温室効果ガス排出量 **26.3kt** (CO_2)
  電気・ｶﾞｽ・燃料等の使用量を係数換算して計算
- NOx排出量 **0.28 t**
- SOx排出量 **0.00 t**
  ※都市ガス使用のためSOx分は無し
- ばいじん **0.01 t**
- 製品 → **出荷**
- ※産業廃棄物排出量 **4,905 t**
  埋立処分量 **1.3 t**
- ※有価引取り排出物量 **409 t**
- 排水量 **80万**㎥
  （REC千葉事業所排水）

集計期間 :2024年１月～12月
（ ※印の項は 2024年4月～2025年3月 ）

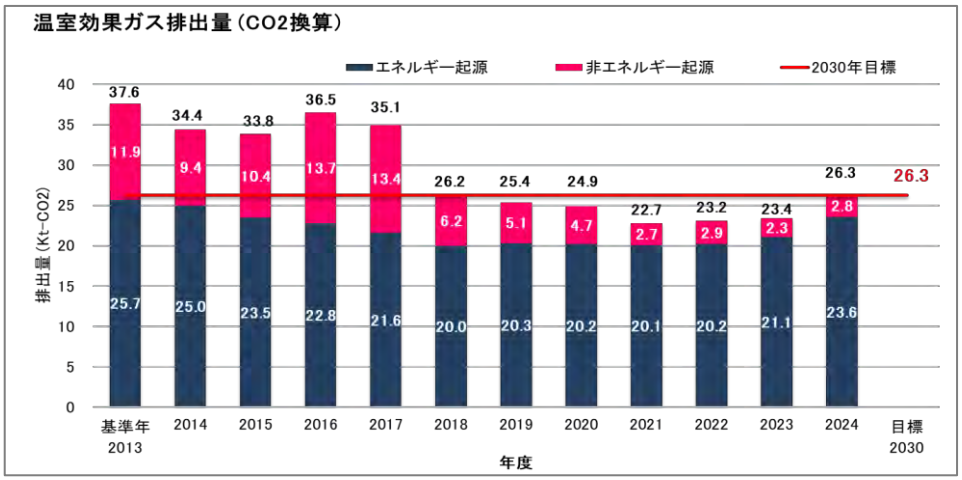
【地球温暖化対策】

当サイトでは、地球温暖化防止および資源保護の観点から、エネルギー起源および非エネルギー起源温室効果ガス*の排出量の削減に取り組んでいます。

◇長期目標：2013年度を基準年とし、2030年度までに温室効果ガス排出量を基準年比30%低減

◇2024年度排出量実績：26.3kt-CO_2 (基準年比: 30%低減)

エネルギー起源及び非エネルギー起源温室効果ガス排出量が前年比1%であったものの、長期目標を継続達成しました。



1) エネルギー起源温室効果ガス排出量の削減

エネルギー起源温室効果ガスの排出量は、23.6kt-CO_2 となりました。

SiCウェハーの生産開始に伴う消費エネルギーの増加があったものの、工場ユーティリティ設備を中心に消費エネルギーの低減に努めたことにより、工場としての排出量を昨年並みとすることができました。

①生産設備の高効率稼働

製品歩留の改善、設備稼働率の向上、時間あたり生産量の改善に継続的に取り組んでいます。

②消費エネルギー削減のための設備改善

当サイトで使用しているエネルギーを生産設備、ユーティリティ、工程毎に「見える化」し、改善を継続しています。

・クリーンルーム外調機の負荷低減

・クリーンルーム設備の稼働管理徹底

・場内LED照明化

2) 非エネルギー起源温室効果ガス(注1) 排出量の削減

(注1): 6ガス (CH_4, N_2O, HFC, PFC, SF_6, NF_3)

非エネルギー起源温室効果ガスの排出量は2.8kt-CO_2となりました。

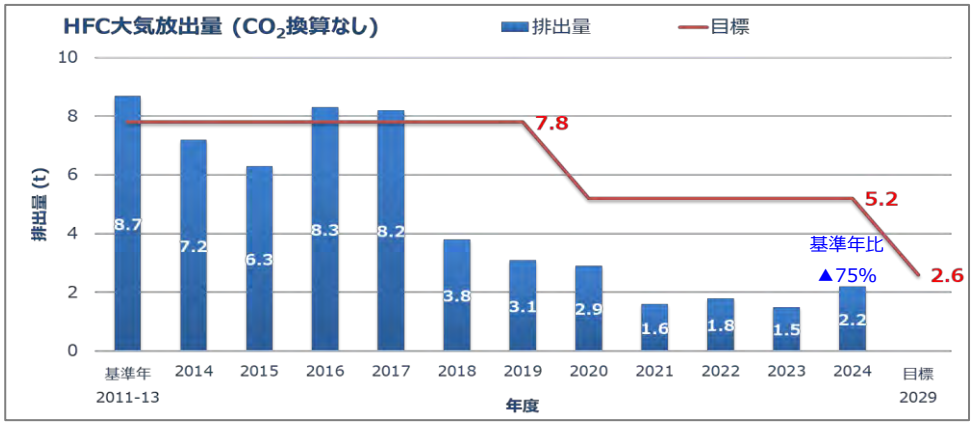
当サイトの非エネルギー起源温室効果ガス排出量(CO_2換算)は、そのほとんどが生産工程で使われるフッ素系溶剤HFC(ハイドロフルオロカーボン)の大気放出によるものですが、HFC揮発ガス回収設備の増強、プロセス改善によるHFC使用量の抑制により、HFC排出量の大幅低減を達成しています。

今後、より地球温暖化係数の低い溶剤への切り替えにより、更なる温室効果ガス排出量の低減を行っていきます。

3) HFC規制

HFCは、2019年1月施行の改正オゾン層保護法により、製造及び輸入の規制が始まりました。

2011年から2013年の生産・消費量の年平均量を基準とした段階的な削減が求められており、2029年には基準年比70%減を達成する必要があります。 当サイトでは、2018年からHFCの使用量、排出量の削減活動を進めており、2024年度は、基準年比75%減を達成しました。



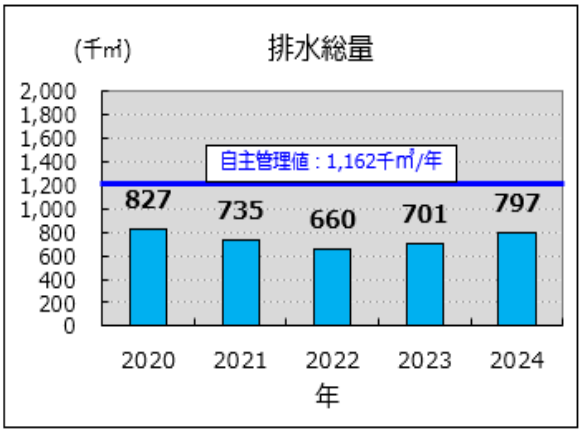
【水質管理】

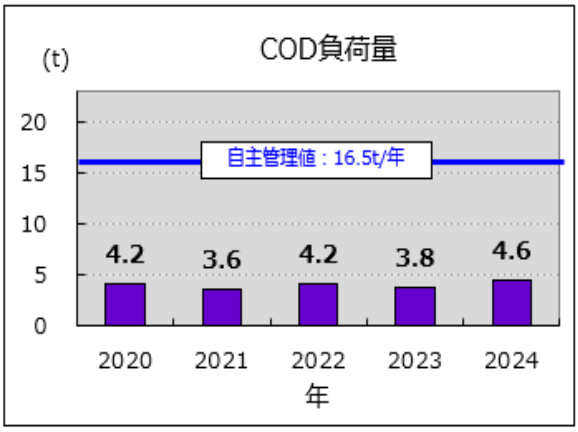
当サイトでは、事業所および敷地内関連企業の排水を処理し、東京湾に排出しています。環境への負荷低減のため、千葉県および市原市との間で環境協定を締結のうえ、協定項目のCOD(化学的酸素要求量)、全窒素、全リン等について協定値より厳しい自主管理値を設定し、関連企業各社と連携した排水管理を行っており、2024年も自主管理値を超える事なく安定した排水水質を維持しています。

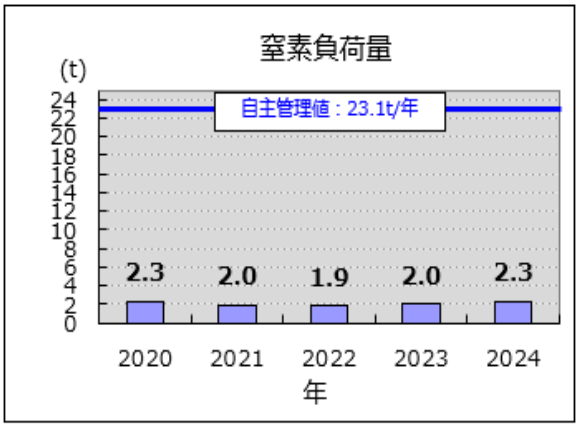
排水の水質は、各関連企業の排水と終末排水を各々常時監視しており、終末排水の水質異常を検知した際には直ちに排水全量を自動回収するシステムを構築しています。

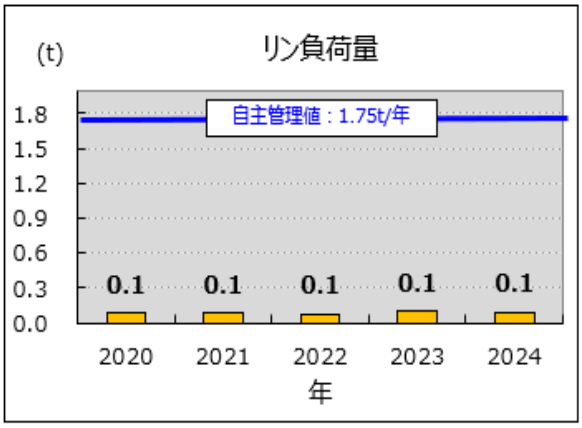
«工程排水緊急回収タンク»

＜総排水量と汚濁負荷量＞





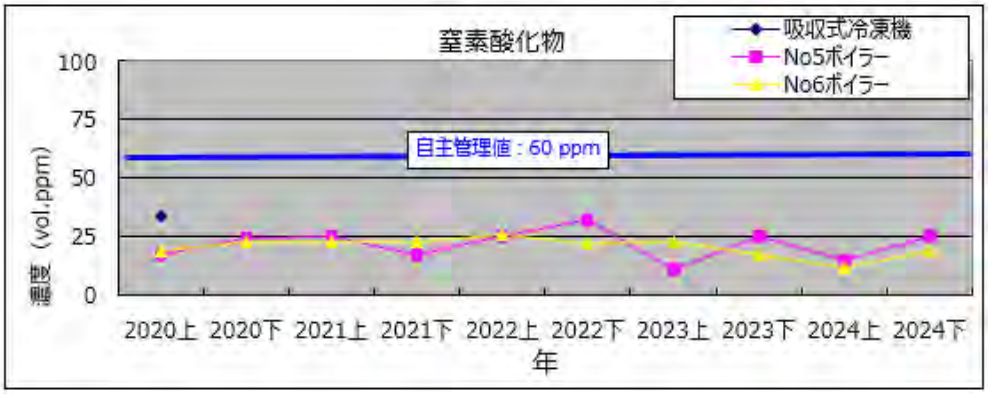




【大気(排ガス)管理】

当サイトでは、ばい煙発生施設として、ボイラー2基を保有しており、いずれの施設も硫黄成分を含まない都市ガスを使用しています。

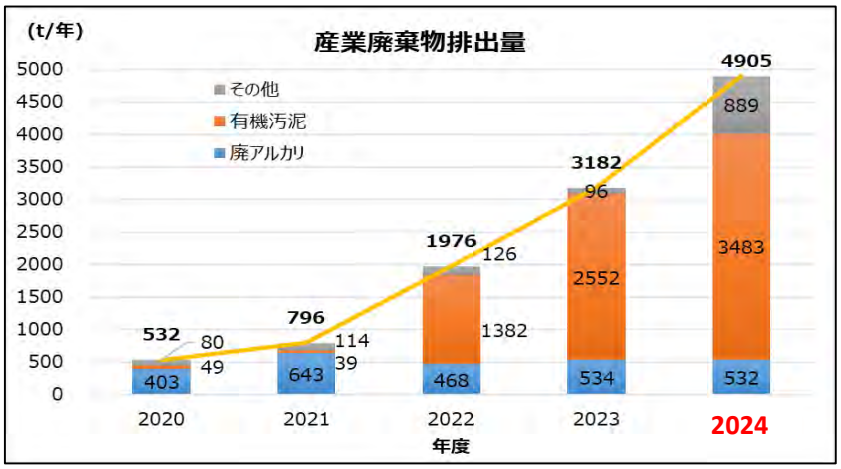
年に2回、窒素酸化物濃度を測定し、協定値より厳しい自主管理値内で推移していることを確認しています。なお、2020年6月から運転を休止していました吸収式冷凍機は、2022年12月に廃止され施設も撤去されています。



【廃棄物削減】

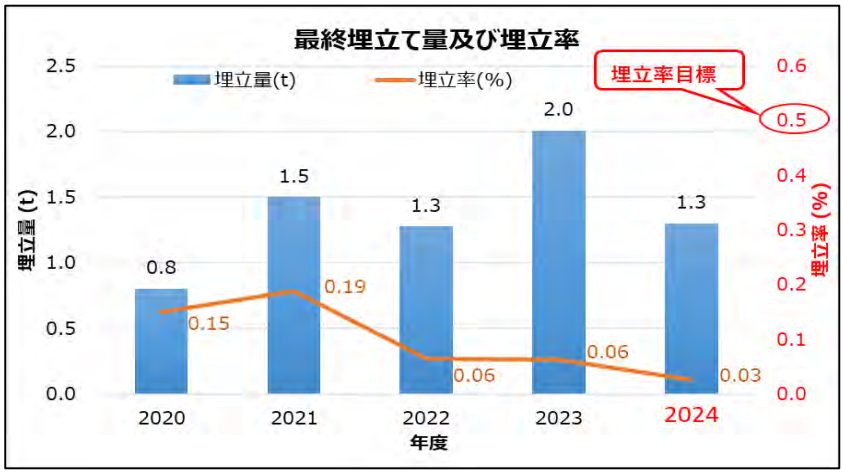
2024年度の年間産業廃棄物排出総量は4,905tで、対前年度比では54%増となりました。SiCウェハーの生産増に伴い、有機汚泥を含むSiC加工廃液が3,817 t 発生したのが主な要因です。

今後もSiCウェハーの生産が継続される中、SiC加工廃液の減容化の検討を行い、工場全体の廃棄物発生量の抑制と再資源化可能な廃棄物の分別徹底に継続的に取り組みます。



【廃棄物のゼロエミッション】

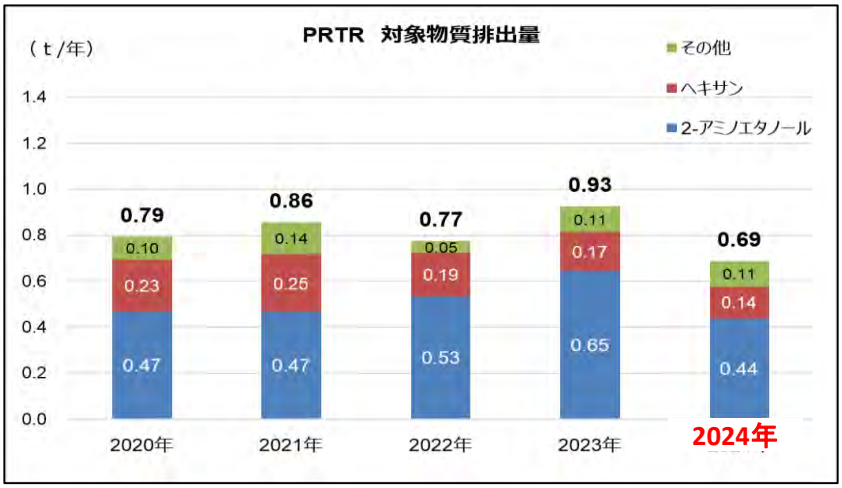
当サイトでは、ゼロエミッション活動として、廃棄物の埋立処分率を0.5%以下に抑えることに取組んでいます。2024年度は、最終埋立処分量1.3t、埋立処分率0.03%となり、目標を継続達成しました。



【化学物質管理】

化学物質管理については、化管法(※1)のPRTR制度などの法規制に従って、対象物質の排出量の把握と削減に取り組んでいます。

2024年度の当サイトで使用したPRTR対象物質の総排出量は0.69tで、対前年度比で約26%減少となりました。これは排出量の主要物質である2-アミノエタノールの使用量が減ったことが主な要因です。



※1　特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

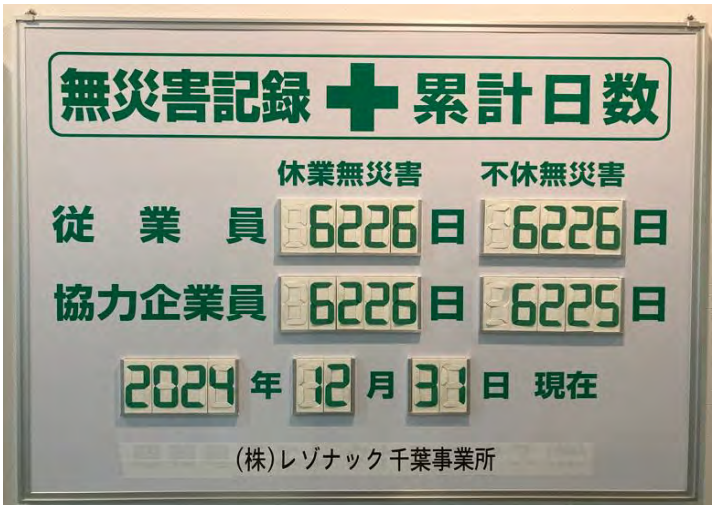
◆労働安全衛生活動実績

【 労働安全成績 】

市原サイトにおける従業員の休業無災害記録については、従来HD事業の従事者を中心に算出していましたが、2024年に事業部の組織変更、2025年1月にはレゾナック・エレクトロニクスの合併/解消などがあった為、2007年から千葉事業所として算出してきた記録を市原サイトの記録として採用することと致しました。

千葉事業所は安全実績を地道に積み重ね、2024年12月31日の時点で休業無災害日数は6,226日、休業無災害時間は、149,424時間となりました。

引き続き、無事故・無災害に向け、安全活動を推進してまいります。



《 無災害記録掲示板 》

【 安全活動 】

1) リスク低減活動

当サイトでは、常駐請負企業員を含む全従業員を39のグループに分け、安全及び化学物質の有害性・危険性についてリスクアセスメント活動を行っており、「危険源の特定」、「リスクレベル評価」、「リスク低減対策の実施」、「低減策の有効性確認」を行い、作業リスク低減、安全性の向上に取り組んでいます。

①設備導入時の安全審査

設備の新設、改造及び工事実施にあたっては、事前にリスクアセスメントを行うとともに安全性審査会を開催し、設計段階からの安全リスク低減に取り組んでいます。

②類似災害防止検討会活動

従業員の安全感度の向上、職場の安全性の向上を目的に、当社グループ内での災害事例について類似災害防止検討会を実施し、各職場に関連するリスクアセスメントを実施しています。

検討結果は、データベース上で公開し情報を共有するとともに、安全衛生委員会にて各委員が輪番制で職場の検討会内容を報告、共有し、安全意識の高揚を図っています。

2) 全体パトロール活動

当サイトでは、事業部長・工場長・事業所長の参加によるトップパトロールを年3回、安全衛生委員会と産業医による合同の職場作業巡視を毎月実施し、職場の日常パトロールでは気づかない、対策が必要と思われる危険性や有害性を特定し、工場全体の環境・安全・衛生リスクの低減に取り組んでいます。また職場巡視においては各部署特有の作業を視察し、外部視点による安全衛生の向上に取組んでいます。

3) 工場内ソーシャルネットワーク

当サイトでは、工場内ソーシャルネットワークの構築を進めています。 現場の作業者が設備、環境、作業などについて、発見した改善箇所や浮かんだ改善アイディアなどの「気づき」を、画像情報などで速やかに報告し、全従業員が情報を共有することにより、迅速かつ確実な対策の実施を目指しています。

【 避難訓練・緊急事態対応訓練・教育 】

当サイトでは、火災想定と大地震想定の全体避難訓練を隔年で交互に実施しており、2024年は、火災想定避難訓練を実施しました。訓練は日勤者を対象とした全体避難訓練（1回）とシフト勤務者と全体避難訓練に参加出来なかった日勤者を対象にした夜間避難訓練（4回）を実施しました。

また、全体避難訓練及び夜間避難訓練に参加出来なかった方については、個別避難訓練を実施し、協力企業従業員を含め、当サイト全員（785名）の訓練が完了しました。

非常対策本部

部署別整列中

夜間避難訓練

【 KYT(危険予知トレーニング)活動 】

市原サイトで働く全従業員が安全に仕事を行い、元気に帰宅することが出来るように安全活動に対して最優先で取り組んでいます。

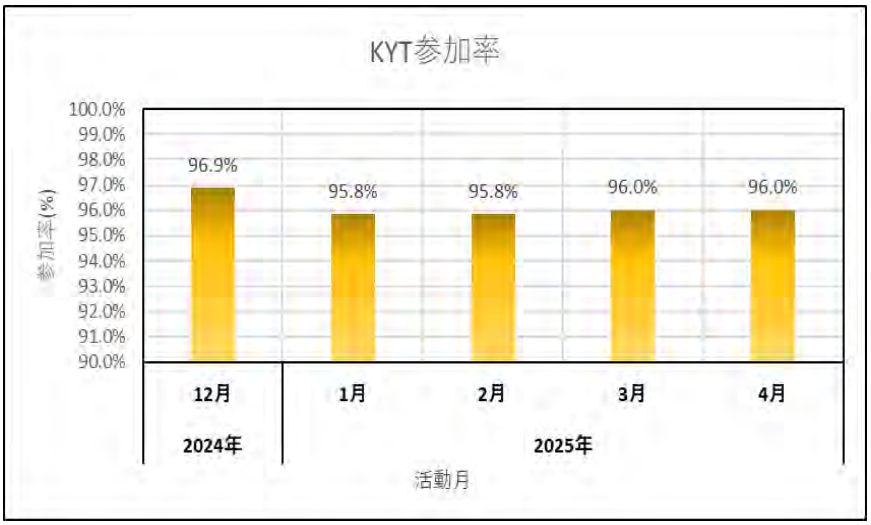
それら安全活動の一環として、従業員個人の安全意識向上による災害発生防止を目的とした『KYT』を行っています。

2025年4月度　KYT活動要約

【最も使用された題材】
30-製造-工場内の通行
13-事務-書類箱運搬

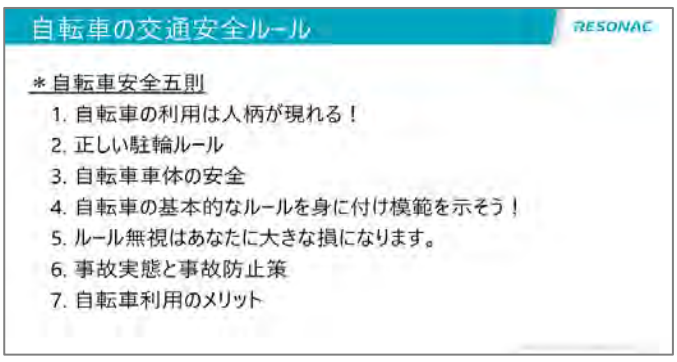
【KYT結果まとめ】
30-製造-工場内の通行
<代表的な行動目標>
作業区画を分け、作業範囲内に通行人は入らないようにしようヨシ！
動いている車両の後ろへ行かないようにしよう。ヨシ！
誘導員は作業車が動いている間は歩行許可を出さない ヨシ！
場内通行ルールと保護具の着用の徹底しよう、ヨシ！

13-事務-書類箱運搬
<代表的な行動目標>
重い物は下段に置き、軽い物は上段に置くようにしようヨシ！
書類箱は重量を確認して作業を行う ヨシ！
荷物の運搬時は、足元や周囲に注意する ヨシ！
本作業の前に、作業スペースの4Sを実施し動線の安全を確保しよう ヨシ！



【 通勤災害防止活動 】

通勤時の自転車事故が増加傾向にあるため、自転車通勤者132人を対象とした「自転車の交通安全ルールについて」の講習会を実施しました。内容は過去に発生した自転車事故の事例などを活用して、交通事故に遭わない方法などの注意喚起を行いました。



【 健康支援 】

1) 生活習慣病予防

主として従業員の生活習慣と食生活の改善をテーマにした「健康ニュース」を月1回発信し、健康づくりの啓発に取り組んでいます。

2) 心の健康づくり

メンタルヘルスに関する取り組みとして、心の健康づくり計画を策定し、従業員の心の健康づくり及び活気ある職場づくりに取り組んでいます。

また、ストレスチェックの職場診断結果を外部の専門家に分析していただき、各部署の強みや弱みを把握し、より良い職場環境整備に活かしています。

3) 感染症予防の徹底

インフルエンザ感染予防として、インフルエンザ予防接種を希望者全員に実施しました。

また、コロナウイルス感染防止について、「手指・備品の消毒徹底」、「事務所・食堂の微酸性電解水常時噴霧」他、工場一丸となって取り組んでいます。

◆地域とのコミュニケーション

【 工場周辺の清掃活動 】

『市原市まち美化サポートプログラム』および市主催の『市内一斉清掃デー』に参加し、レゾナック及び敷地内企業従業員による市原埠頭線歩道清掃を定期的に実施しております。
今後も地域の皆様に貢献できるよう努めていきます。

【 自転車マナー指導 】

全国交通安全運動期間に合わせ、『市原市八幡地区安全衛生協議会』の会員会社として、市原警察署と合同で市原埠頭入り口交差点、歩道橋付近で自転車運転者への広報啓発物の配布と安全運転の声掛けを行い、市原サイト従業員のみならず近隣企業の方々の安全通勤へ取り組みを行っています。
（春夏秋冬の交通安全運動期間に合わせ年4回実施）

【 八幡臨海まつり 】

2024年5月26日、市原市の八幡運動公園で開催された「八幡臨海まつり」に参加、出店しました。
　当サイトは手作りのルーレットを使った子どもゲームコーナーを出店し、900人を超える子供たちが遊びに来てくれて大盛況となりました。
 ゲームに挑む真剣な眼差しもオモチャを選ぶ時の弾ける笑顔も印象的で子供たちの楽しい思い出になったのではないでしょうか？
今後も積極的に地域とのコミュニケーションを図っていきます。

【 事業所見学会 】

　2024年6月25日、市原市立八幡小学校5年生2クラス計64名の皆さんを工場見学に招待しました。『環境月間』の活動の一環として、市内臨海部に立地する各企業の環境への取り組みを紹介するものです。
　当社の環境に対する取り組みの説明の後、生産工程を窓越しに見てもらうと、子供たちは真剣な眼差しで見学をしていました。

RESONAC

Chemistry for Change

株式会社レゾナック・ハードディスク
株式会社レゾナック　デバイスソリューション事業部
株式会社レゾナック　先端融合研究所(千葉グループ)
株式会社レゾナック　千葉事業所

2025年 市原サイト ＣＳＲレポート

発行年月日　2025年7月

本レポートの内容に関するお問い合わせ

株式会社レゾナック 千葉事業所　環境安全室
〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通3番
TEL　0436-41-5111
FAX　0436-42-5495